

一千百年の祈り

新春をご機嫌よくお迎えのこととお察し申し上げます。

昨年は、想像を絶する大きな自然災害が日本列島を走り、多くの被害を及ぼし、私たちの生活基盤を揺るがしました。

社会全体が音もなくひび割れしている現実を直視した時、おのずと身の引き締まりを強く感じますが、醍醐寺は、そのひび割れしている社会を救う「祈り」が、一千百年にわたり脈々受け継がれています。

それは醍醐天皇のご誓願である三つの祈りです。

その祈りとは「観音」「薬師」「五大力」ですが、その根本は「いのち」に対する祈りです。

「観音」は生きることの大切さを教え。また、「薬師」は、先祖より積み重ねられた目に見えない「いのち」の大切さを教え。さらに「五大力」は、一心に祈りつつ実践すべく第一歩を踏み出す勇気を教えています。

このことをしっかりと自分自身の心に秘め、やさしい心でやさしい言葉で語り合うことから安心が生まれて来ます。

先ずは自分の身の周りから始めましょう。

総本山醍醐寺座主

仲田 順和